

## 平成29年度 学校関係者評価書

南アルプス市立落合小学校

### ○ 第2回学校関係者評価委員会の経過

1 日時 平成30年1月24日（水） 午後6時00分～7時30分

2 出席者 学校教育支援者

区長会長	浅野 勝	主任児童委員	武内 節子
P T A会長	矢崎 健吾	P T A副会長	川窪 裕
学校長	笹本 仁	教頭	矢崎 健
教務主任	石川 明子		

3 提案内容

- (1) 学校運営の方針
- (2) 児童の様子
- (3) 学校評価結果を活かした今後の学校運営

4 協議内容

(1) 学校評価全体について

- ・ 評価全体を見ると職員、保護者、児童とも肯定的な評価（A、B、C、Dのうち、AとB）が多く、学校運営が良好に行われていることがうかがえる。特に職員の評価は1学期に比べ高くなっている。しかし、肯定的な評価であってもB評価の多いものもある。そこには何らかの問題があるはずである。B評価を付ける場合には今後課題点を記述するよう促し、解決にあたるよう改善策を探っていく必要がある。
- ・ 職員にもそれぞれ得手・不得手な部分があるが、足りない面はお互いに支え合い、補い合っ学校運営や教育活動に支障が出ないようにしていることが分かった。職員の反省にあるが、さらに温かみのある職員同士の指導や、報告・連絡・相談の徹底などをして、子どもたちにより良い指導ができるようにしていただきたい。

(2) 学習面について

- ・ 学力向上は、学校に課せられた最重要課題の一つである。職員、保護者、児童ともに肯定的な評価をしている。これは、ここ数年来の授業力向上を目指した校内研の取組をはじめ、朝学習、家庭学習、チャレンジルーム、チャレンジテスト、家読などの成果だと思われる。基礎学力は底上げがされてきているとの報告なので、今後はさらにそれを活用した学力の向上に取り組んでほしい。
- ・ 以前から本校の課題であった「授業中の発言」については肯定的評価が1学期より15ポイントほど下がっている。今年度は道徳を中心に話し合い活動を充実させようと考えたが、成果が上がらなかった。昨年度までの研究を引き継ぎ、どの教科においても話し合い活動を充実させ、発言が活発にできるようにしていきたい。ただし、発言を以前に比べしなくなったことが授業の質の低下には直結しない。発言はしなくても、子どもたちが課題に対して真剣に向き合い考えることも大切である。そのバロメーターの一つが発言であると捉え、その他の評価方法も含め検討していきたい。

### (3) 生活面について

- ・ 「学校が楽しいか」の肯定的評価が89.7%、「仲よく遊ぶ友達がいるか」の肯定的評価は98.2%と開きがある。結果に開きがあるが、アンケートを取るときに校内でのイベントや授業内容などにも左右されることもある。本来学校は子どもたちにとって楽しいところであるが、教育活動の中で負荷をかけると、大変だと感じてしまうことがあり、結果に影響することもある。子どもたちには発達段階に応じた適当な負荷は必要でそれに耐えられるような指導をすることと、度を越した負荷にならないような配慮もお願いしたい。
- ・ 落合小の子どもたちは地区内のどこで会ってもあいさつをしてくれて気持ちがいい。大きい声であいさつができることはいいことだが、小さい声であっても言えることが大切である。今後も学校、家庭、地域であいさつができるように取組んでいきたい。
- ・ 長年の児童会の取組もあり、子どもたちが学年関係なく遊んでいる姿が見られる。異年齢の子どもたちが一緒に遊んでいる様子を見るのは微笑ましいことである。その中で、つながりができ、上級生は下級生を思いやる気持ち、下級生は上級生を見習う態度が生まれる。今後も続けていってほしい。
- ・ 心身を深く傷つけるものではなかったが、いじめがあった。相手を傷つけるつもりで言ったのではなくても受け取りかたでいじめと取られることもある。反面、以前は自分と違う面をもった子をばかにするようなこともあったが、今年はそういうことが大分減ってきた。また、授業参観の時、特別支援学級の子がサラッと交流学級の中に入れるような雰囲気作りが感じられた。子ども同士がより良い関係を作れるような学級づくり、学校づくりに努めてもらいたい。また、教師も子どもへの対応時には考えながらの言動や行動が必要であるので、気を付けてほしい。

### (4) 携帯・スマホ、ゲームについて

- ・ 以前は携帯・スマホは高学年児童が主に所持していたが、低学年にまで広がりつつある。今や携帯・スマホのない時代には逆行できない。その中で、子どもたちの様子を見てみると、持っていない子は話の中に入っていけなかったり、宿題もできたものの写真を撮ってラインで友達に送ったりするようなこともある。使い方については、学校では道徳の時間をはじめあらゆる機会に指導してもらいたい。その際、家庭との連携は欠かせない。また、大人も使う場面、使用頻度等に注意していかなくてはならない。

### (5) その他

- ・ 「落合すももの里学校応援団」をはじめとする、地域の方々、保護者の皆様の温かい応援があって、学校運営、教育活動が滞りなく行われていることは大変ありがたい。今後も家庭、地域と連携した取組をしていきたいので、ご協力をお願いしたい。
- ・ 現在体育館の建設で校庭が狭い状態になっているが、来年度以降も現体育館の取り壊し、校庭拡張作業、校舎の大規模改修などによりしばらく校庭を使える範囲が狭い状態が続くが、ご承知おきいただきたい。
- ・ 昨年の卒業式では、袴の子が多かった。学校だよりを通して学校の考えは承知したが、あまり華美にならないようにしてほしい。